

媒体名	物流ニッポン
掲載日	2018.12.24
掲載面	1面

テールリフター補助継続

国交省 ■ 2次補正予算案決定

補助率維持 大口割最大50%も

政府は21日、中小トラック運送事業者へのテールゲートリフターとハイブリッド車(HV)の導入補助などを盛り込んだ2018年度2次補正予算案を閣議決定した。働き方改革が叫ばれる中小トラック運送事業者への支援策として、計1億9900万円を計上。そのうち、テールリフター導入補助には1億円を充てる。17年度補正予算の2億円から半減するが、補助率は維持。また、緑ナンバーを対象とした高速道路通行料金の大口・多頻度割引の最大割引率50%の臨時措置は、20年3月末まで延長する。

テールリフターの導入補助は16、17両年度の補正予算にも盛り込まれており、今回は継続が決定した形だ。補助率は17年度と同様、

導入経費の6分の1で、補助額の上限はアーム式・垂直式が10万円、後部格納式・床下格納式は20万円。加えて、燃料費の高騰などを踏まえ、HVの導入補助も実施。補助額は通常車両との差額の3分の1となる見込みで、予算額は9900万円を計上した。また、

大口・多頻度割引の延長も盛り込み、予算額は108億5600万円とした。

物流関係では、港湾関連データ連携基盤を構築する港湾の完全電子化の推進に6600万円を計上。港湾荷役機械の異常や故障を未然に把握する実証には、6100万円を盛った。

国交省全体の補正予算額は8915億円。そのうち6323億円が「防災・減災、国土強靱化のための緊急対策」に振り分けられており、「そのほか喫緊の課題への対応」でも西日本豪雨や台風21号を踏まえた防災の項目が多く盛り込まれている。

(辻本亮平)